

経営比較分析表（令和元年度決算）

栃木県 那須町

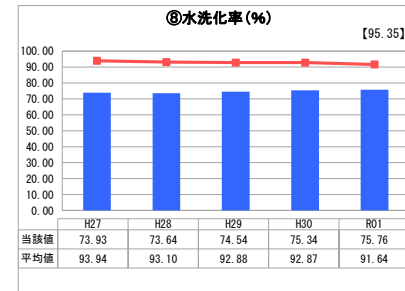
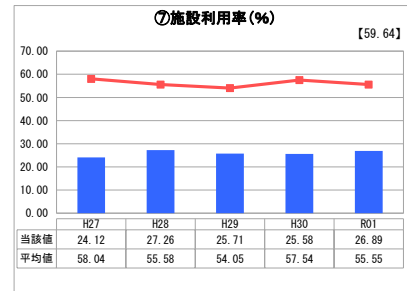
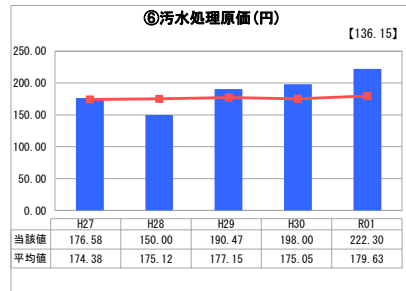
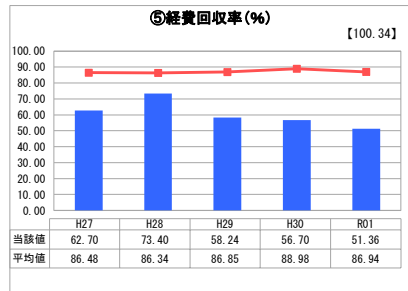
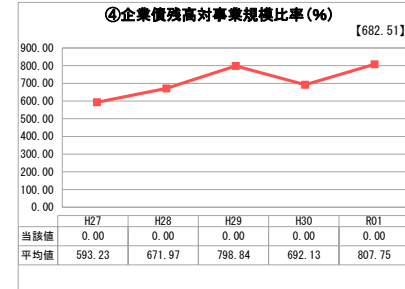
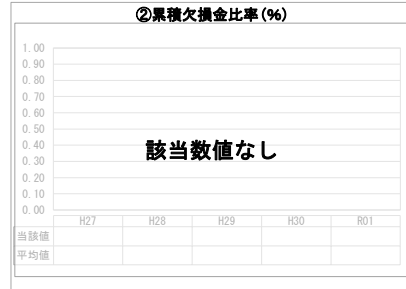
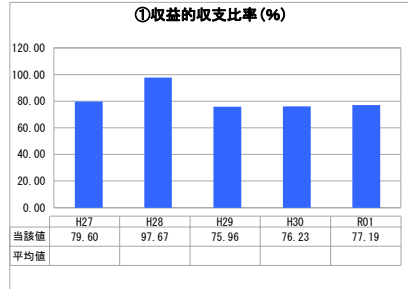
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	10.91	98.75	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,053	372.34	67.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,719	2.21	1,230.32

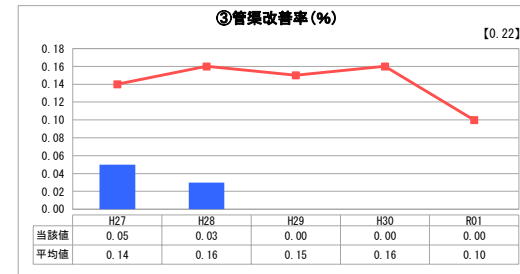
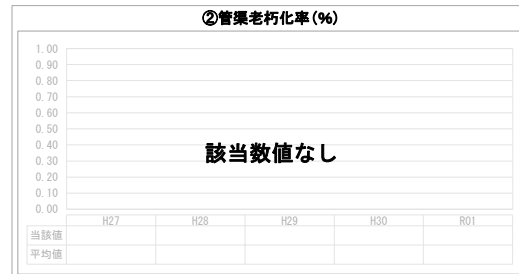
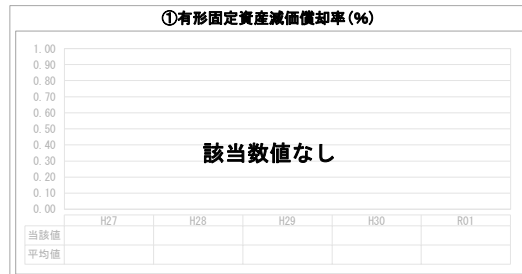
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経費回収率は51.36%、水洗化率（接続率）75.76%と類似団体と比較し平均を下回っていて、一般会計からの繰入金に依存した経営となっている。

施設利用率は26.89%と類似団体と比較し下回っている。

湯本処理区は主な汚水流入が観光汚水流入であり、観光シーズンピーク時の処理量と平常時の処理量に差があるため施設利用率の低下に影響している。また、人口減少や大型ホテルの撤退による処理量の減少も利用率を下げる要因となっている。

処理場の運転・維持管理業務については、複数年契約による民間委託によってコスト縮減を図り維持管理を行っている。

企業債残高は減少傾向にあるが、今後は下水道施設の老朽化に伴う長寿命化対策や耐震対策工事に係る債務の増加が見込まれる。

2. 老朽化の状況について

那須町には湯本処理区と黒田原処理区の二つの処理区があり、湯本処理区においては昭和59年3月に供用開始、黒田原処理区においては平成14年3月に供用開始を行っている。

湯本処理区については供用開始から30年以上が経過し施設・管渠の老朽化が進んでいるが、令和元年度は管渠の改良・更新等を実施していないため管渠改善率は0.00%と類似団体（0.10%）と比較し下回っている。事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を図るためストックマネジメント計画に基づく計画的な改修を行う必要がある。

また、長寿命化対策と耐震対策との整合性を図りながら工事費の縮減に努める。

全体総括

令和元年度公共下水道事業の歳出合計は6億6千万円に対し、令和元年度一般会計からの繰入金で1億8千4百万円と繰入金に依存している。

整備予定の下水道全体の整備が完了しても、普及率は人口全体の約15%程度で、負担公平の観点から適正な料金改定等の検討が必要となってきている。

人口減少や高齢者世帯の増加による水洗化率（接続率）の低迷や、節水型製品の普及等も使用料収入が増加しない要因となっている。

今後も接続費用等の無利子貸付制度を継続的に推進するとともに、戸別訪問や広報による周知などの未接続対策の充実を図り経営改善に向けた取り組みを行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。